



# 津小だより

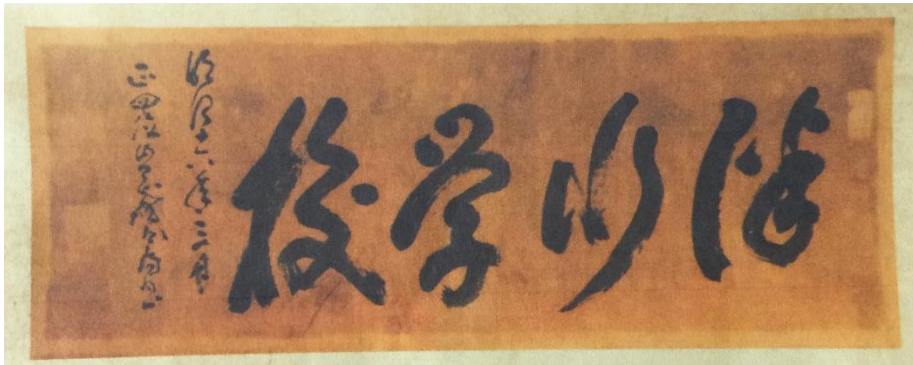
〒959-4402 阿賀町津川3234

R5.2.1 No.13

『開運！なんでも鑑定団？ 山岡鉄舟の書！』

校長 高松 豊

津川小学校の校長室には、幕末の偉人、**山岡鉄舟の書**が飾られています。



皆さんは、山岡鉄舟をご存じですか？「知らないな～」という方のために！

【山岡 鉄舟】（フリー百科事典ウィキペディアより）

天保7年〈1836年7月23日〉－明治21年〈1888年〉7月19日）の生涯  
日本の幕末の幕臣、剣術家、明治期の官僚、政治家。剣・禅・書の達人。  
勝海舟、高橋泥舟とともに「幕末の三舟」と称される。

なるほど～ 勝海舟は幕末の有名人ですが、山岡鉄舟も偉大な人だったようです。どんなことで有名な人だったのか調べました。

【江戸無血開城の立役者】（フリー百科事典ウィキペディアより）

江戸無血開城を決した勝海舟と西郷隆盛の会談に先立ち、徳川慶喜の使者として官軍の駐留する駿府に辿り着き、西郷と面会して談判する。この際、西郷から5つの条件を提示される。それは、

- ① 江戸城を明け渡す      ② 城中の兵を向島に移す      ③ 兵器をすべて差し出す
- ④ 軍艦をすべて引き渡す      ⑤ 将軍慶喜は備前藩にあずける

というものであった。このうち最後の条件を鉄舟は拒んだ。西郷はこれは朝命であると凄んだ。これに対し、鉄舟は、もし島津侯が（将軍慶喜と）同じ立場であったなら、あなたはこの条件を受け入れないはずであると反論した。西郷は、江戸百万の民と主君の命を守るため、死を覚悟して単身敵陣に乗り込み、最後まで主君への忠義を貫かんとする鉄舟の赤誠に触れて心を動かされ、その主張をもっともだとして認め、将軍慶喜の身の安全を保証した。これによって**江戸無血開城への道が開かれる**こととなった。

山岡鉄舟は、幕末の重要人物だったようです。校長室にある鉄舟の書ですが、これは、「津川学校」と書かれています。書の最後に明治16年3月と記されているので、鉄舟晩年の作品のようです。**「博物館レベルのお宝なのではないだろうか」と期待**しました。けれども、フリー百科事典の最後には、次のように記されていました。

人から頼まれれば断らずに書いたので各地で鉄舟の書が散見される。

一説には生涯に **100万枚書した**とも言われている

100万枚もあるのか…。大事にしていきたいと思います。

## <スキー教室 ～三川温泉スキー場にて～ >



昨シーズンは、感染症対策のために1回しか実施できませんでしたが、今シーズンは、各学年2回ずつスキー教室を実施することができました。例年より少雪でしたが、自分のレベルに合ったグループで楽しく滑ることができました。**指導者の皆様とボランティアでご協力いただいた皆様に感謝いたします。ありがとうございました。**

## ☆あいさつ隊がんばっています！☆

「進んで元気にあいさつしよう」を合い言葉にしてあいさつ運動をしています。学年ごとに交代で「あいさつ隊」となり、「おはようございます」「こんにちは」の元気な声が響いています。



◎保護者の皆様や地域の皆様から「見付けたよ！あいさつじょうずな子どもたち」のうれしいお手紙をいただきました。一部ですが紹介します。

学童に迎えに行ったとき、2年生のAさんが、「こんにちは」と声をかけてくれました。進んであいさつができてとても素敵でした。

大変元気に自分からあいさつをしていて、すばらしいと思います。続けることができるように頑張ってください。

4年生のBくんが、お世話になった他校の先生に町のスーパーでお目にかかった時、元気よくあいさつをしていました。その先生が嬉しくなるあいさつだったそうです。「いつでも、どこでも、誰にでも」のお手本のようないいあいさつができたBくん、すばらしいです！



## <ご感想ありがとうございました！>

「津小だより 12月号」（奥阿賀の方言が外国語に聴こえるの？）を読んだ地域の方からお手紙をいただきました。「久しぶりに声を出して笑えました。」「昔、新任の若い男の先生が赴任して来て、女の子たちが『オレ』『オラ』と言っているのに驚いていたのが忘れられません。」というエピソードもいただきました。お名前は書かれていなかったのですが、年配の女性のように感じました。「これからの子どもたちが、阿賀町に生まれて、この世に生まれてよかったと思える未来が待っていることを願わずにはられません。」という温かい言葉が最後にありました。私もまったく同感です。ご感想ありがとうございました。（校長）